

ICT 活用に関するアンケート調査結果

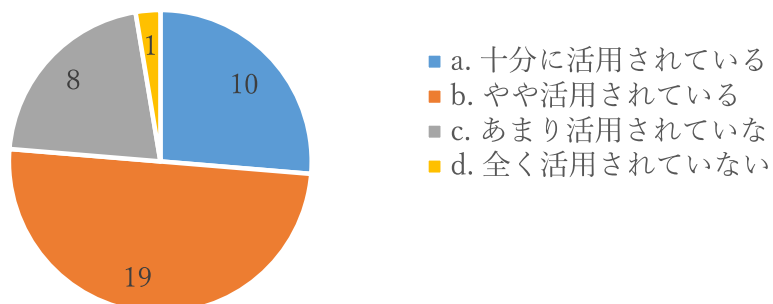
一般社団法人日本歯科医学会連合
理事長 住友 雅人
ICT 活用委員会
委員長 藤井 一維
(公印省略)

実施期間： 2022年10月3日から11月3日

アンケート依頼学会：46学会

アンケート回答学会：38学会 (回収率：82.6%)

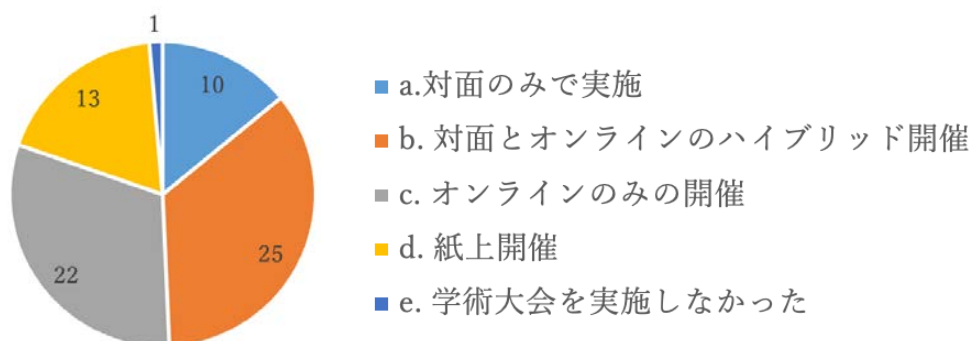
1. 現在の貴学会での ICT 活用状況について



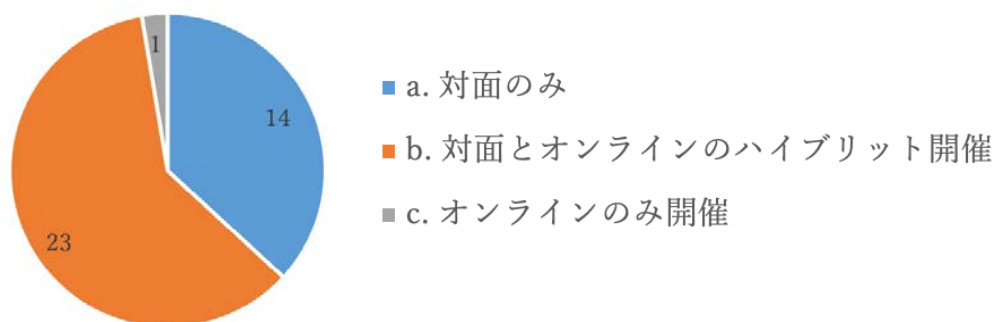
コメント

- 学術大会や理事会のオンライン開催
- 講習会のオンライン開催
- 病理標本のバーチャルスライドを用いた症例検討
- 教育素材のオンライン公開
- オンラインによる役員選挙
- 会員情報のパーソナル ID を用いた閲覧・修正
- オープンソースのプラットフォームである moodle を導入
- 研究会参加記録のオンライン化
- 学会員専用のオンラインアプリによる情報発信
- 口腔顔面痛の教育アプリケーションの作成
- 学会プログラムのオンライン化
- 各種委員会のオンライン開催

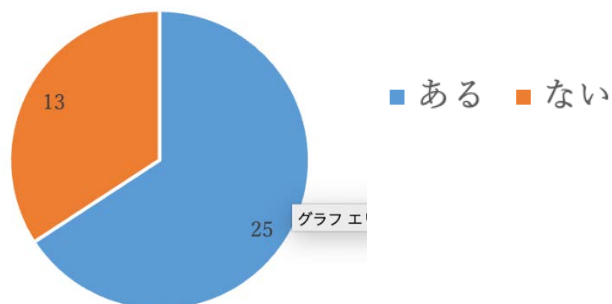
2. これまでに実施したコロナ禍以降の学術大会の実施方法についてお伺いいたします。(複数回答可)



3. 今後の学術大会について、コロナ禍を契機に収束後もオンライン開催を検討しますか。



4. 学会活動の一貫として ICT を利用した市民公開講座、シンポジウム、ワークショップ等の開催または開催予定はありますか。

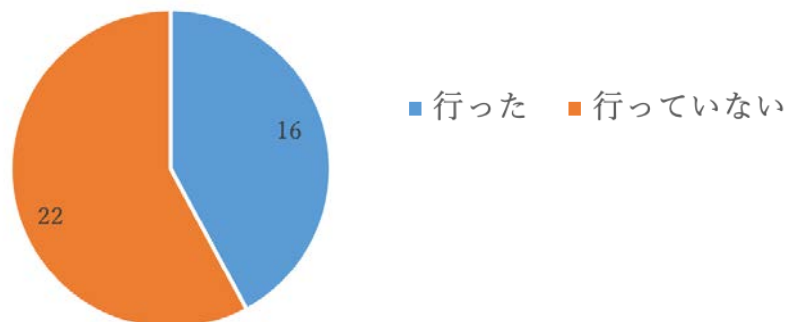


コメント

- 今後も研修会等で実施の予定
- 市民公開講座、シンポジウム等をハイブリッドで行う予定
- 地方会では Zoom を利用してリモートにて行った。

- 研修会等の実施を検討
- スプリングカンファレンスを YouTube にてオンデマンド開催。継続して行う。
- ハイブリッド開催は費用がかかることからメリット・デメリットを考えて行う。

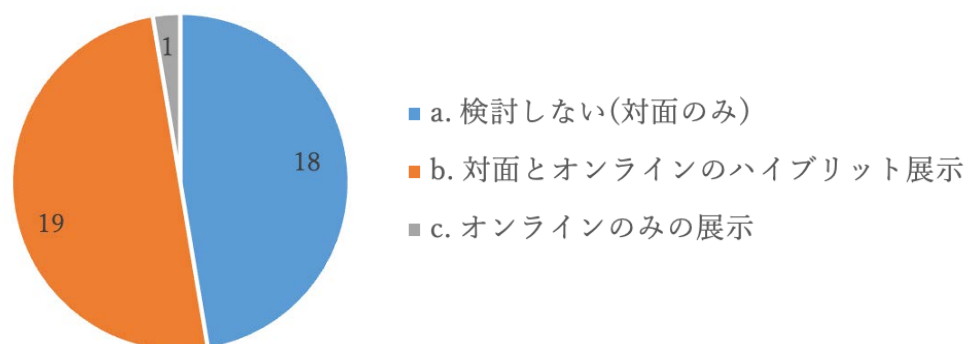
5. オンライン学術大会開催時の企業のオンライン出展等を行いましたか。



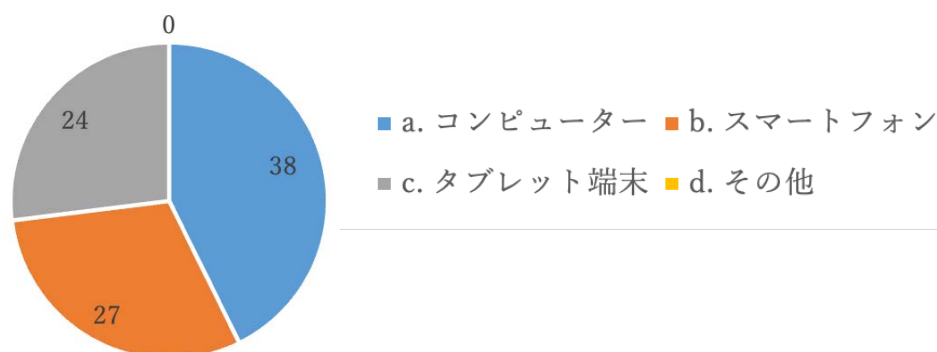
コメント

- 講演間に放映する企業 CM 枠の販売
- 賛助会員から e-デモンストレーションを受け付けている。
- リンクによるオンライン広告バナー広告
- オンラインセミナーの実施。
- 商社展示のオンライン化
- 学会 Live 講演前後に広告を挿入した。
- オンデマンド広告
- オンライン出店
- HP に企業オンライン出店のコーナーを設け、クリックすると動画が閲覧できるコーナーを設置
- ビデオによる出店。
- 企業製品動画、バナー、企業ロゴのループ再生

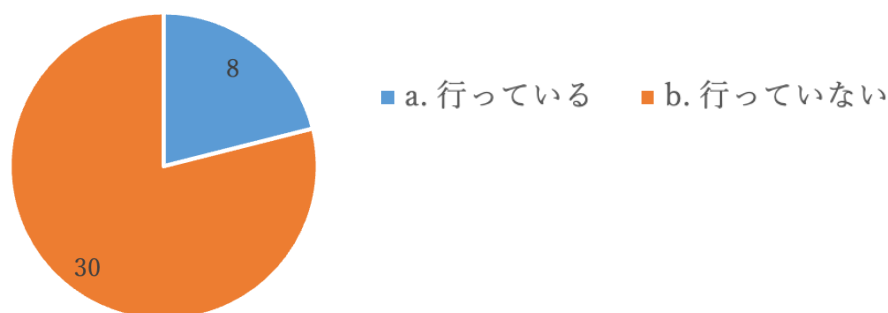
6. 今後、学術大会開催時の企業のオンライン出展等を検討しますか。



7. ICTとして活用されている（活用を検討している）機器はどれですか。



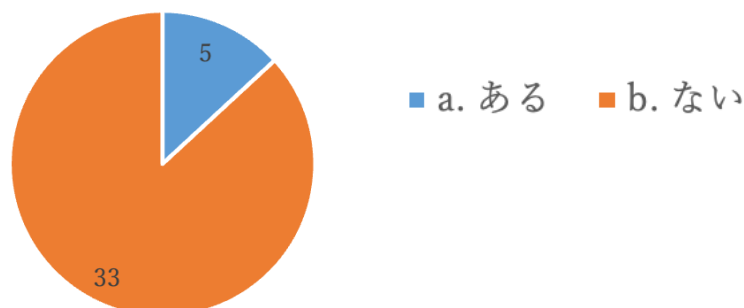
8. 貴学会においてICTを活用した検査，診断，治療，管理等を行っていますか。



コメント

- バーチャルスライドを用いた病理診断の検討。
- 会員専用のホームページにて会員個人の認定資格、学会参加、会費納入状況などの管理を行う。
- 口腔機能低下症管理アプリを用いタブレット等で検査結果を入力することで口腔機能低下症の判定「管理計画書」と「管理記録簿」の作成と印刷が可能とする。
- 認定資格申請時の歯周ポケットチャートを作成し、症例毎の提出を行っている。今後は数値データとして臨床データベースを構築する。
- 口腔顔面痛に関するオンライン診療の検討
- CT画像からの三次元データからサージカルガイドの作成や、口腔内スキャナーによるデジタルデータの応用。
- 在宅障害者の摂食嚥下障害への遠隔診療。
- 会員専用（個人）ホームページにて、会員への告知や個人の認定医資格、学会参加、会費納入状況などの管理を行っている。
- 口腔機能低下症管理アプリ、タブレットやスマートフォンで使用可能なインターフェースチェアサイドでのリアルタイム検査結果入力と口腔機能低下症の判定「管理計画書」と「管理記録簿」の作成と印刷が可能
- 認定資格申請時の歯周ポケットチャート「JSP-Chert」を作成し、症例ごとに提出を依頼している。現在は数値データとしての提出にはなっていないが、今後は数値データとしての提出に移行し、データを蓄積、解析できるようにする。

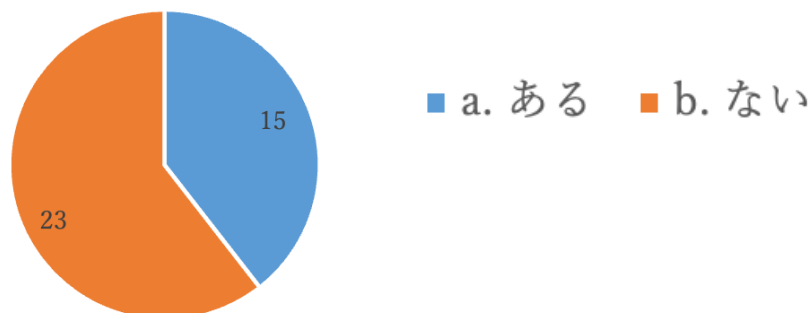
9. 貴学会では、VR、AR またはシミュレーターの開発など、DX に関する研究を推進するなどの方針はありますか。



コメント

- 手術等についての VR や AR の利用・開発などを課題として上げている。
- 基礎実習模型の作製、PDF やビデオ教材作成を行っており、会員だけでなく会員にも活用してもらえるようになっている。
- バーチャル患者により、会員の診断能力の向上を図る予定である。
- VR あるいは AR を利用した CST（ご遺体を使用した手術修練）を補完する臨床技術教育研修システム開発の推進。
- AI を利用した画像診断、病理診断など。

10. その他、貴学会において検討している ICT 活用事項がありますか。



コメント

- E-ラーニングによる研修。
- 会員専用の病理診断トレーニングの為に Clinico-Pathological Conference 共催の提供。
- 学術大会参加記録、研修単位等の管理をスマホ等でできるようにするシステム構築（来年には運用開始）。
- 高齢者医療における遠隔医療の検討・推進。
- WEB でのワークショップ。
- 認定医、専門誌の症例審査、ケースプレゼンテーションのオンライン化
- 学会発表のアーカイブ、雑誌、会議資料のデジタル化
- 歯科処方薬と既存の服用薬との薬物相互作用の検索システムの構築
- 企業開発医療機器とレセコンを Bluetooth で接続できるように働きかける。

- 学会の方針ではありませんが、介助歯磨きスキルの評価・訓練を支援する VR シミュレータの開発。
- 会員の研修や専門医ポイント管理

11. ICT を活用する上で、知りたい情報などがありましたらご記載下さい。

- ICT を利用した先進的な取り組み事例など講演会やワークショップなど開催していただきたい。
- 現在臨床家では、来年から施行される「オンライン資格認証・オンラインレセプト」などについて困惑している状況が見られます。歯科医学会連合としても何らかの示唆をしていただけると幸甚です。本学会（日本デジタル歯科学会）は、まさに日本の歯科医療における「ICT 化」について先導していかなければならない存在だと認識しています。各方面でご協力させていただきます。
- 歯学部学生や研修医の臨床教育における VR、AR などの導入。
- 顎顔面補綴のような特殊技術（希少処置）に関する実践 VR ライブラリーなどは、検討の余地があると思われる。
- 診査・診断の援助、形成の支援などに活用できればと思います。
- 学会としては、会員を対象としたアンケート調査や、セミナーにおける活用を考慮している。
- システム構築の支援
- 歯科心身医療に関わる患者の診察。歯科心身症患者対応に関する歯科医師からの相談。
- 睡眠衛生指導の遠隔指導、摂食嚥下障害などの遠隔診療
- 患者情報に関する守秘義務を十分に守ることができるシステムの情報
- 他学会で導入している ICT 活用事項の情報（必要なものについては導入したい）
- e-learning システムの構築方法・会員の研修管理等の方法
- ICT を用いて会員同士や他職種とのコミュニケーションを促進する方法
- 学生教育での活用法
- 上記の問 10 の内容に関してですが、医科の専門医機構では機構主導で専攻医登録などのオンラインシステムを整備していますが、歯科専門医機構においては全くそのような動きが見られません。各学会が単独でシステムを構築すると莫大な負担となります。日本歯科医学会連合としては、各学会に対し何らかの ICT 支援を行うお考えがあるようでしたら、情報提供をお願い致します。

12. 今後、歯科界において進めるべき ICT 活用案等がありましたらご記載下さい。

- AI を使った診断と情報の共有化
- 現在臨床家では、来年から施行される「オンライン資格認証・オンラインレセプト」などについて困惑している状況が見られます。歯科医学会連合としても何らかの示唆をしていただけると幸甚です。本学会は、まさに日本の歯科医療における「ICT 化」について先導していかなければならない存在だと認識しています。各方面でご協力させていただきます。（日本デジタル歯科学会）
- 歯学部学生や研修医の臨床教育における VR、AR などの導入。
- 顎顔面補綴のような特殊技術（希少処置）に関する実践 VR ライブラリーなどは、検討の余地があると思われる。
- 診査・診断の援助、形成の支援などに活用できればと思います。

- 学会としては、会員を対象としたアンケート調査や、セミナーにおける活用を考慮している。
- システム構築の支援
- 歯科心身医療に関わる患者の診察。歯科心身症患者対応に関する歯科医師からの相談。
- 睡眠衛生指導の遠隔指導、摂食嚥下障害などの遠隔診療
- 患者情報の守秘義務との兼ね合いになりますが、エックス線写真（特にパノラマエックス線写真）の情報のデータバンク化： 災害時に使用することを前提として
- カルテの共通化等による歯科界内での病診・病病・診診連携，ビッグデータ収集の促進。
- 医科や福祉との共通プラットフォーム構築による，他職種連携促進。
- 地域格差を解消するための専門的歯科医療に関する相談やオンライン診療の促進
- VR, AR またはシミュレーターの導入による歯科医療技術の向上、学生教育の推進
- 市民への歯科保健情報の提供、患者への継続的な健康支援（保健指導）。
- 保健診療データを用いた疾病・処置行為の傾向分析、あるいは歯科医療機関の経営分析。
- 医療保健保険者への歯科保健情報提供。・感染症の蔓延状況など外部要因と歯科医療提体制の動向分析。